

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：32613

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K04910

研究課題名(和文) 実用的空間と象徴的空間の交錯する場としてのフランス近世近代建築デザイン研究

研究課題名(英文) A study on French architectural design in the Modern Ages as a domain where practical space and symbolic space intersect

研究代表者

中島 智章 (Nakashima, Tomoaki)

工学院大学・建築学部(公私立大学の部局等)・教授

研究者番号：80348862

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：ヴェルサイユ城館はわが国でも絶対王政の象徴として、また、その豪華な佇まいによって、一般にも広く知られた大建築だ。建築の理論や実用的側面だけではこの城館の姿を捉えきれず、王権とそれに関わる象徴的側面も重要だ。本研究では、近世近代フランス社会の政治・社会・文化が、ヴェルサイユ城館などのフランス近世近代建築のデザイン、設計手法をいかに画したのか、それらが以降の世界の建築にいかなる影響を及ぼしたのかを、建築の実用性(建築計画等)と象徴性(図像学、記憶、表象等)の観点から明らかにした。世界の建築への影響という点では、近代米国や日本統治期台湾の建築へも視野を広げることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、世界は「グローバル」「単独の球体」として一つになろうとする潮流が強まり、新たな「グローバル・ヒストリー」構築の動きも顕著だ。だが、「アジアの時代」、「環太平洋の時代」といわれつつも、ヨーロッパ的価値観が上記の潮流の底に流れ、それに基づく全世界の伝統的「配役」がむしろ強化されているように思われる。これはヨーロッパ近世の「世界システム」に由来し、英仏中心の帝国主義的な世界観へと繋がるが、文化的には絶対王政下のフランスの影響が色濃い。本研究ではこれまでの研究課題の視点に加えて、対象を近世近代のヨーロッパ等へと拡大し、最終的にはグローバル化する現代社会の正体と底流を突き止める一助となるだろう。

研究成果の概要(英文)：The Chateau de Versailles is a large building that is widely known in Japan as a symbol of absolute monarchy and for its magnificent appearance. The appearance of this building cannot be fully understood only from the theoretical and practical aspects of architecture, and the symbolic aspects related to monarchy are also important. In this study, we clarified how the politics, society, and culture of early modern and modern French society shaped the design and design methods of French early modern and modern architecture such as the Chateau de Versailles, and how they influenced subsequent architecture around the world, from the perspective of architectural practicality (architectural planning, etc.) and symbolism (iconology, memory, representation, etc.). In terms of the influence on global architecture, we were able to broaden our view to include architecture in modern America and Taiwan during the Japanese colonial period.

研究分野：建築史学

キーワード：ヴェルサイユ 古典主義建築 フランス建築 様式建築 歴史主義建築

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 平成 16 年度から同 18 年度まで、申請者は若手研究(B)「アンシアン・レジーム期の王権の文化・社会とその文化資源としての建築」を進めてきた。そこでは、人々の様々な活動が常に関わる場ゆえにその共通の記憶を最もよく体現するものとして、建築を人類の生活に不可欠かつ後世に伝えるべき貴重な資源と捉えた。

(2) 一方、平成 19 年度から同 22 年度までの若手研究(B)「アンシアン・レジーム期におけるソフト・パワーとしての王権建築とその様式伝播」では、社会の反映として現れた建築のあり方がひとつの「様式」として結実し、それ自体が絶大な「ソフト・パワー」となって、その様式を生んだ社会とは異なる性質を持つ社会に根付いていくという面も重要であることを明らかにした。

(3) 平成 20 年度から同 23 年度までの基盤研究(A)「都市インフラストラクチャーの史的比較研究」では研究分担者として参加し、オランダや南仏の諸都市を対象とする研究活動の一部を担当して、建築レベルを大きく上回る規模のハードウェアへの幅広い視点や知見を得た。

(4) その後、平成 22 年度から同 26 年度まで、基盤研究(C)「近世ヨーロッパにおける王権と地域勢力の角逐の場としての都市・国土インフラの整備」では、ハードウェアの成立には様々な立場の人々と思惑が関わっていること、ハードウェアにもソフトウェアとしての面があり、それが他の文化や社会へも影響を与えることがあることを前提として、研究対象を単体の建築から国土・都市インフラに拡大し、絶対王政を経て中央集権的な国民国家が姿を現してきた近世ヨーロッパの姿をインフラという視点から明らかにした。

(5) これらを受けて、平成 27 年度から平成 30 年度まで実施した基盤研究(C)「近世近代ヨーロッパにおける中心と周縁の交流の場としての建築・インテリア創造」では、同様のことを次の二つの方向に拡張した。すなわち、1)インフラというマクロな観点からインテリアというミクロな観点への転換、および、2)近世の絶対王政の時代だけでなく近代の市民社会の時代への拡大である。基盤研究(C)「近世ヨーロッパにおける王権と地域勢力の角逐の場としての都市・国土インフラの整備」で示したような近世近代ヨーロッパの姿を建築とインテリアの関係、および、「中心」と「周縁」の交流という視点から明らかにした。

(6) 今次研究課題「実用的空間と象徴的空間の交錯する場としてのフランス近世近代建築デザイン研究」では、上記の、建築を文化遺産と捉える視点、ソフトパワーとしての「様式」という視点、「建築」を単一の建造物だけでなくインフラやインテリアといったスケールの異なる対象も含むものとして捉える視点、対象を近世フランスから近世近代のヨーロッパへと拡大してきた点を取り入れた上で、研究目的と方法を具体化しながら、最終的にはグローバル化していく現代社会の正体と底流を突き止める一助とすることを目論んだ。

2. 研究の目的

(1) 研究代表者は一貫して、ヴェルサイユ城館、とりわけ、その中枢たる鏡の間と王のアパルトマンなどは、単なる豪華建築であるのみならず、ヨーロッパが近世から近代を迎える結節点にある建築として、西洋建築史上最も重要な作品の一つと主張してきた。一方、それは当時のフランスが生み出した建築文化の枢要であるからには、城館単体の研究だけではその本質は浮かび上がってこない。都市築城 (urban fortification) なども含めた国土・都市インフラや、国家の殖産興業政策との関わりも深いインテリアやプロダクトの分野も横断的にみていくことが肝要だ。そして、それらが内包する「実用的側面」と「象徴的側面」という観点から、近世近代フランス宮殿建築の複雑な設計手法を明らかにすることを目的とする。

(2) 前者の観点は、モダン・ムーヴメントの建築潮流に由来する、建築意匠学の伝統的な空間論、機能論、後者は城館や庭園を彩る絵画や彫刻に関わる図像解釈学的側面の他、王権の権力表現における建築の意味、後世に伝えられる記憶のメディアとしての建築といった観点が考えられる。具体的には次の研究テーマを遂行した。

a) ルイ 14 世、ルイ 15 世、ルイ 16 世治世下のヴェルサイユ城館研究(設計手法、インテリア、産業政策の一環としての宮殿建築などの視点)

b) ルイ 14 世治世下の都市築城などの国土インフラ、都市インフラの領域史・都市史的研究

(3) 加えて、近世近代フランス社会の政治・社会・文化が建築文化を通じて、以降の世界の建築にいかなる影響を及ぼしたのかという視点を獲得した。

3. 研究の方法

(1) 本研究では以下のような研究テーマを掲げる。ここで前提となるのは、申請者が実施した若手研究(B)2 課題で獲得した視点、すなわち、1)あるハードウェアの創造は当時の様々な立場の人々と思惑が背景となっているその時代の「文化資源」であるが、一方では、2)ハードウェアにもソフトウェアとしての側面があって、それ自身がソフト・パワーとなって、それが創造された社会・文化とは異なる他の社会・文化へも影響を与えることがあるという視点である。b)のii)とiii)のテーマは、本研究の目的というよりは次の段階を見越したものである。

- a) ルイ 14 世、ルイ 15 世、ルイ 16 世治世下のヴェルサイユ城館研究
- i) ヴェルサイユ城館の設計手法(建築計画、建築構法、建築材料、図像分析など)
- ii) ヴェルサイユ城館のインテリアにみるフランスの殖産興業政策
- iii) 同時代、および、近代のフランス、他の西洋建築の事例との比較
- b) ルイ 14 世治世下の都市築城などの国土インフラ、都市インフラの領域史・都市史的研究
- i) 国境地帯の都市築城とその立体模型の都市史的研究
- ii) 日本近代築城との比較研究
- iii) 近世近代フランスの文化的景観(paysage culturel)に関わる建築史的研究

(2) a)では、申請者の研究の主体であるヴェルサイユ城館研究に一つの決着をつけることを試み、申請者の博士論文以来の関連論文、発表をまとめて著作刊行を目指したが、2023 年度に「歓待インフラ」という新たな視点を得たことにより、その観点からの研究をも盛り込むべく、将来の課題として持ち越した。iii)については、申請者が分担研究者となっている基盤研究(A)「テロワールによって捉える土地と文化の新たな領域史の構築」との連携を図った。

4. 研究成果

(1) ヴェルサイユ城館はわが国でも絶対王政の象徴として、また、その豪勢な佇まいによって、一般にも広く知られた大建築だ。しかし、近世フランスという、ヨーロッパが近代へと移り変わる歴史の中で重要な役割を果たした国と時代の産物たるこの城館についての研究は、近世フランス建築を対象とした様式研究や建築理論研究と比べてわが国では手薄だった。ヴェルサイユ研究では王権への言及は必須であり、建築活動が、それを推進しようとする何らかの意志の表れという社会の営みの一つであり、建築家など建築関係者の意図の及ばぬところで展開する場合もあったという視点は無視できない。建築の理論や実用的側面だけではこの城館の姿を捉えきれず、王権とそれに関わる象徴的側面も重要だ。

(2) そこで本研究「実用的空間と象徴的空間の交錯する場としてのフランス近世近代建築デザイン研究」では、近世近代フランス社会の政治・社会・文化が、ヴェルサイユ城館などのフランス近世近代建築のデザイン、設計手法をいかに画したのか、それらが以降の世界の建築に及ぼす影響を及ぼしたのかを、建築の実用性(建築計画等)と象徴性(図像学、記憶、表象等)の観点から明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 NAKASHIMA Tomoaki、SUZUKI Toshihiko、KAGAWA Hiroshi、SUGIHARA Yuki	4. 巻 29
2. 論文標題 DESCRIPTION BY FURUICHI KOI ON THE URBAN PLANNING OF ROME CITY, ITALY	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 AIJ Journal of Technology and Design	6. 最初と最後の頁 492 ~ 497
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3130/aijt.29.492	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 NAKASHIMA Tomoaki、SUZUKI Toshihiko、KAGAWA Hiroshi	4. 巻 27
2. 論文標題 DESCRIPTION BY FURUICHI KOI ON SUSPENSION BRIDGES AND LOADS ETC. AROUND DURANCE RIVER, FRANCE	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 AIJ Journal of Technology and Design	6. 最初と最後の頁 1056 ~ 1061
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3130/aijt.27.1056	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 NAKASHIMA Tomoaki、SUZUKI Toshihiko、KAGAWA Hiroshi、SUGIHARA Yuki	4. 巻 28
2. 論文標題 DESCRIPTION BY FURUICHI KOI ON THE PORT FACILITIES AT MARSEILLE, FRANCE	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 AIJ Journal of Technology and Design	6. 最初と最後の頁 471 ~ 475
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3130/aijt.28.471	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 中島智章	4. 巻 85/ 775
2. 論文標題 コルベール文書「ヴェルサイユ宮殿:概論」の ヴェルサイユ新城館造営過程への位置づけ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6. 最初と最後の頁 2029-2035
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3130/aija.85.2029	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 NAKASHIMA, Tomoaki	4. 巻 26/ 64
2. 論文標題 INFLUENCE OF FRENCH MANUAL BOOK OF FORTIFICATION, COURS ELEMENTAIRE DE FORTIFICATION BY NICOLAS-PIERRE-ANTOINE SAVART ON GORYOKAKU DESIGN	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 AIJ Journal of Technology and Design	6. 最初と最後の頁 1225-1229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aijt.26.1225	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中島智章, 鈴木敏彦, 香川浩	4. 巻 27/ 65
2. 論文標題 古市公威によるフランス・デュランス川のインフラ視察記 『ヨーロッパの公共事業についての覚書』第1章の活字化と邦訳	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会技術報告集	6. 最初と最後の頁 533-538
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aijt.27.533	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 中島智章
2. 発表標題 「バロック」とカトリック改革の教会建築
3. 学会等名 宗教モニュメント研究会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中島智章
2. 発表標題 「土居義岳『建築の聖なるもの 宗教と近代建築の精神史』を読む」
3. 学会等名 日本建築学会西洋建築史小委員会 西洋建築史の諸問題 第4回ラウンドテーブル (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島智章
2. 発表標題 「坂野正則編『パリ・ノートル＝ダム大聖堂の伝統と再生』を読む」
3. 学会等名 名日本建築学会西洋建築史小委員会 西洋建築史書評会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島智章
2. 発表標題 『セリエ ワイン醸造関連建築物とその資材』（1896）のビルディング・タイプ関連用語
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 中島智章	4. 発行年 2022年
2. 出版社 エクスナレッジ	5. 総ページ数 248
3. 書名 西洋の名建築がわかる七つの鑑賞術	

1. 著者名 キリスト教文化事典編集委員会	4. 発行年 2022年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 790
3. 書名 キリスト教文化事典	

1. 著者名 マシュー・ライス、岡本 由香子、中島 智章	4. 発行年 2022年
2. 出版社 エクスナレッジ	5. 総ページ数 226
3. 書名 英国教会の解剖図鑑	

1. 著者名 三浦篤, ステファン・リスナー, マティアス・オクレール, ブノワ・カイユマイユ, 野平一郎, 寺田寅彦, 芳賀直子, 中島智章, 賀川恭子, 田所夏子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館	5. 総ページ数 371
3. 書名 『パリ・オペラ座 響き合う芸術の殿堂』	

1. 著者名 川向 正人、海老澤 模奈人、加藤 耕一他	4. 発行年 2023年
2. 出版社 エクスナレッジ	5. 総ページ数 176
3. 書名 西洋の名建築 解剖図鑑	

1. 著者名 織守 きょうや(文)、山田 佳世子(イラスト)、中島智章(協力)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 エクスナレッジ	5. 総ページ数 216
3. 書名 英国の幽霊城ミステリー	

1. 著者名 「建築学の広がり」編集委員会	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ユウブックス	5. 総ページ数 144
3. 書名 建築学の広がり	

1. 著者名 マシュー・ライス、中島 智章、岡本 由香子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 エクスナレッジ	5. 総ページ数 240
3. 書名 英国建築の解剖図鑑	

1. 著者名 レスター・ウォーカー、中島智章	4. 発行年 2021年
2. 出版社 マール社	5. 総ページ数 336
3. 書名 図解 アメリカの住居	

1. 著者名 木村三郎, 安室可奈子, 小林亜起子, 栗田秀法, 中島智章, 新畑泰秀, 望月典子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 260
3. 書名 『新古典主義美術の系譜』	

1. 著者名 中島智章	4. 発行年 2021年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 136
3. 書名 『図説キリスト教会建築の歴史』増補新装版	

1. 著者名 坂野正則, 坂田奈々絵, 高井里恵子, 中島智章, 加藤耕一, 松嶋明男	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 288
3. 書名 『パリ・ノートル=ダム大聖堂の伝統と再生 歴史・信仰・空間から考える』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------